

研究推進委員会企画シンポジウム

健康心理学会禁煙研究最前線

～今、なぜ健康心理学会で禁煙研究を推進しなくてはならないのか？～

企画・司会者 山田富美雄（大阪人間科学大学）

島井 哲志（日本赤十字豊田看護大学）

話題提供者 高橋 裕子（奈良女子大学、京都大学禁煙外来）

野田 哲朗（大阪府立精神医療センター）

満石 寿（立教大学コミュニティ福祉研究所 PD フェロー）

指定討論者 田中 宏二（岡山大学）

キーワード：禁煙治療、禁煙支援、ニコチン代替療法、薬物療法、精神科、敷地内禁煙、携帯デバイス

【企画主旨】禁煙：医学に最も近い健康心理学的テーマ

日本健康心理学会の社会的使命は、心理科学研究の実践から人々の健康に寄与することであろう。健康とは WHO の定義に示されるように単に病気ではない、痛みがないというだけでなく、心身両面にわたる「よりよい状態（ウェルビーイング）」を指す。したがって、健康心理学は、人々を、心身両面にわたる悪しき状態から、よりよき状態へと回復させ、更によりよい状態を維持・増進することが使命であろう。こうした意味から、健康心理学は医学に最も近い立場の心理学領域と言える。

新生健康心理学会研究推進委員会は、こうした認識に立って、医学と共通の価値観から人々の健康行動を促進し、不健康行動を除去するための研究実践を推進する。したがって、研究者個人の興味・関心に基づく私的研究ではなく、社会的イシューやニーズに基づく問題解決型グループ研究を推進することによって、社会の要請に応えたい。

そこで本シンポジウムでは、医学ともっとも関連の深い「禁煙(治療・支援)」に焦点を絞り、健康心理学における禁煙研究最前線と題し、その道の第一人者から、これから集中的に研究実践が望まれる新領域について熱く語っていただく。本学会で禁煙を主テーマとしたシンポジウムは、2007 年のアジア心理学会でミネソタ大学精神科教授で臨床心理士の Dorothy Hatsukami 氏を招いて行ったシンポジウム「Trends of research on smoking behavior and health: Some effective suggestion on health psychology in Asia」以来となる。

【シンポジウム概要】

まず、禁煙を医学として確立した高橋裕子氏からは、禁煙を志す患者への最新の治療法についてご紹介願う。薬物療法だけでなく、禁煙行動の形成には心理学的アプローチがいかに重要であることを語っていただく。次に精神科医療の最前線で活躍する野田哲朗氏からは、精神科病院における敷地内禁煙を実現された体験談から、今後の精神科医療における健康心理学の役割について語っていただく。最後に、携帯電話による禁煙サポートシステムを開発した満石寿氏からは、スマートフォン（スマホ）を用いた禁煙ナビサポを紹介していただく。なお研究推進委員の大竹恵子（関西学院大学）先生より、女子大学生

の禁煙についてビデオレターによる発言が予定されています。シンポジウムでは、大学内・病院施設内での禁煙問題を抱えておられる会員各位からの積極的な発言を期待しています。